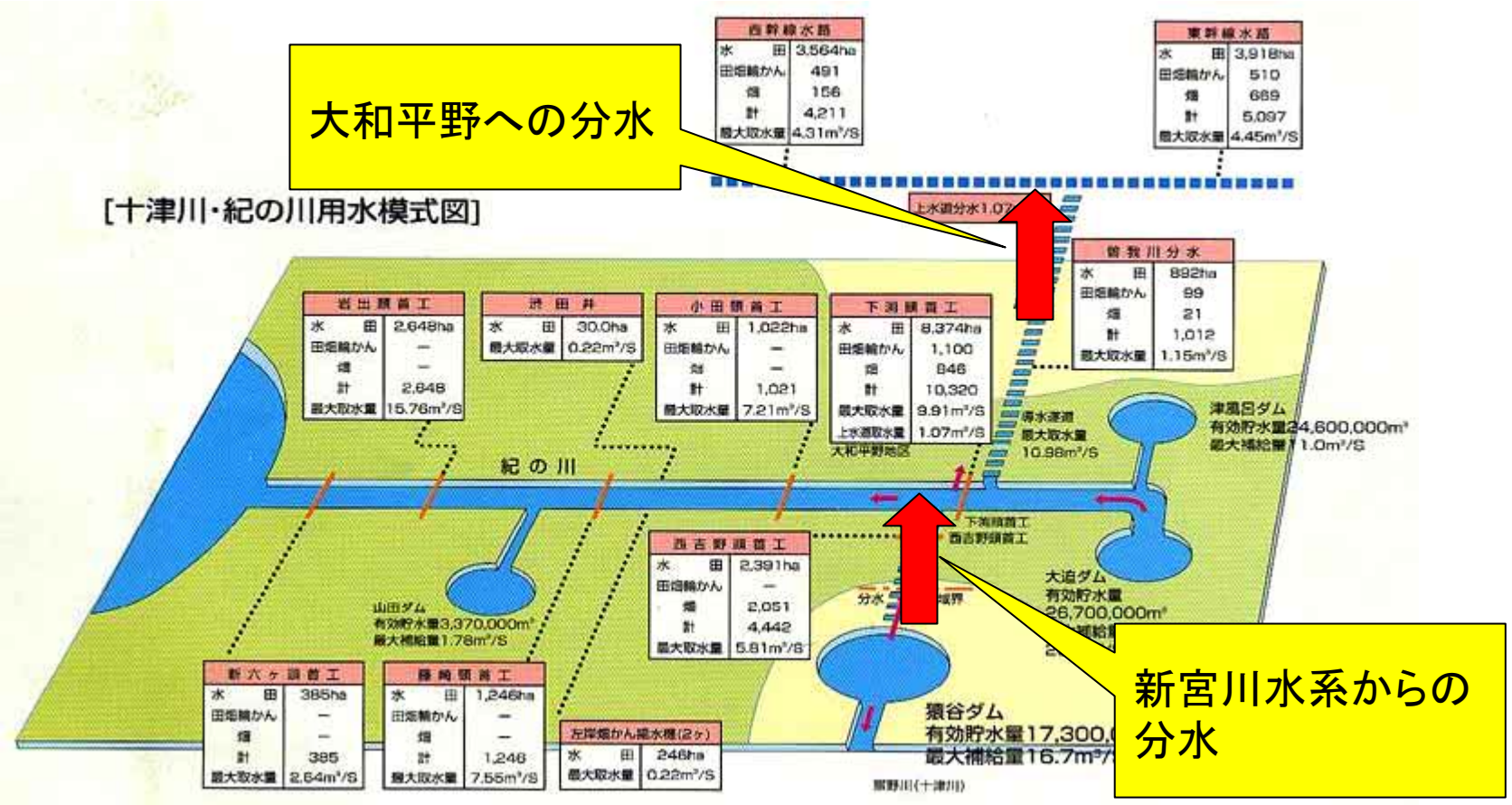
# 十津川・紀の川総合開発

大和平野は周辺の山が浅く、雨が少ないことから昔から水不足に悩まされました。そのため、吉野川（紀の川）から水を引くという発想は1700年頃からありましたが、下流からの抵抗が激しく実現しませんでした。

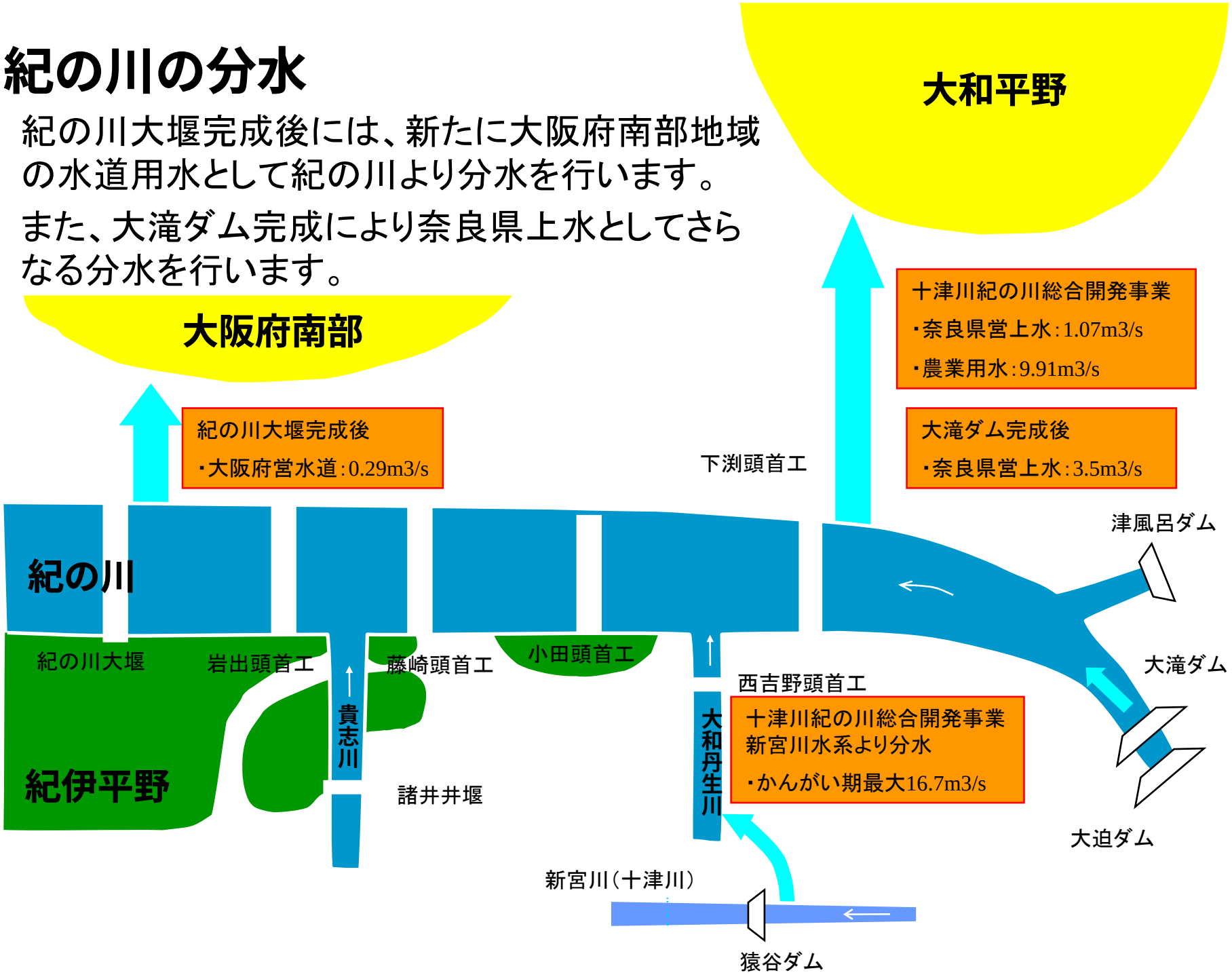
その後、第2次世界大戦後の国の復興対策として、1949年（昭和24年）ようやく、十津川・紀の川総合開発事業としてスタートしました。



# 紀の川の分水

紀の川大堰完成後には、新たに大阪府南部地域の水道用水として紀の川より分水を行います。

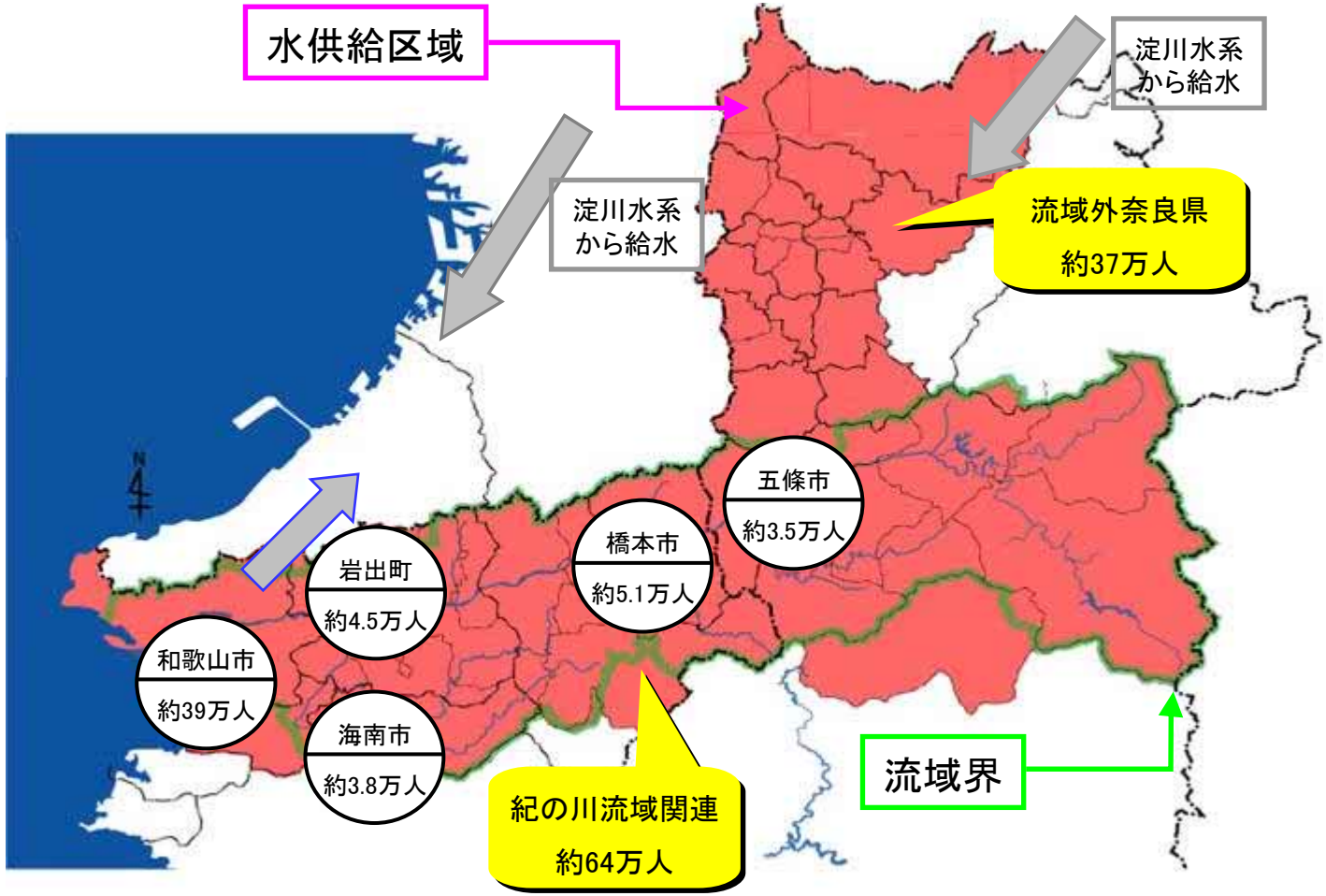
また、大滝ダム完成により奈良県上水としてさらなる分水を行います。



# 水道用水（1）

## 水道用水供給区域

紀の川の水は、約101万人の人々の飲料水として利用され、紀の川大堰完成後には、約57万人の人々が紀の川の水を飲料水として安定的に利用されます。



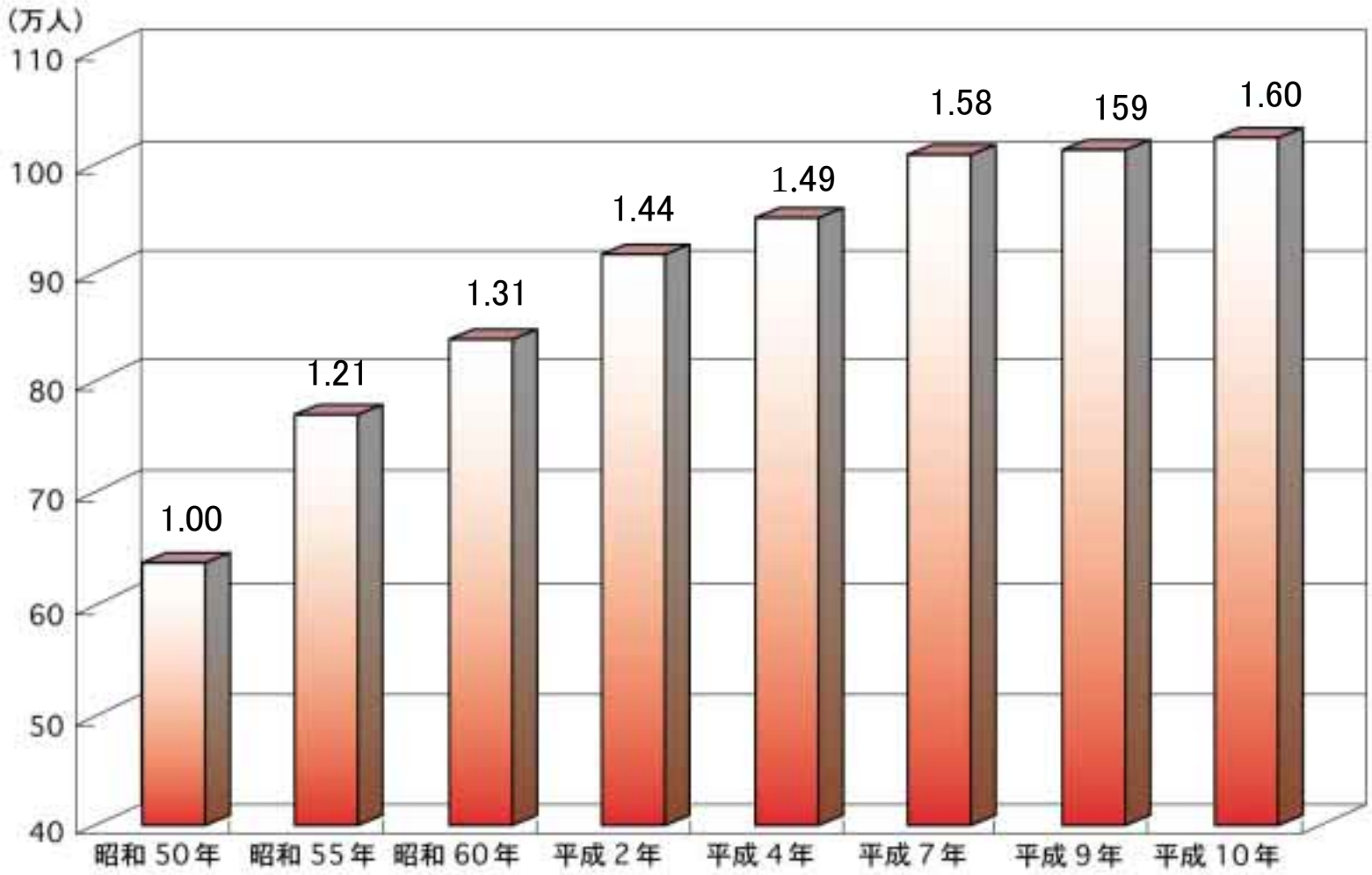

※上水供給区域は、紀の川流域関連市町村と奈良県水道局ヒアリングによる市町村とした。

# 水道用水(2)

水道用水供給人口の推移

近年、水道用水供給人口は横ばい状態です。

**給水人口（紀の川流域の水を利用している地域）**



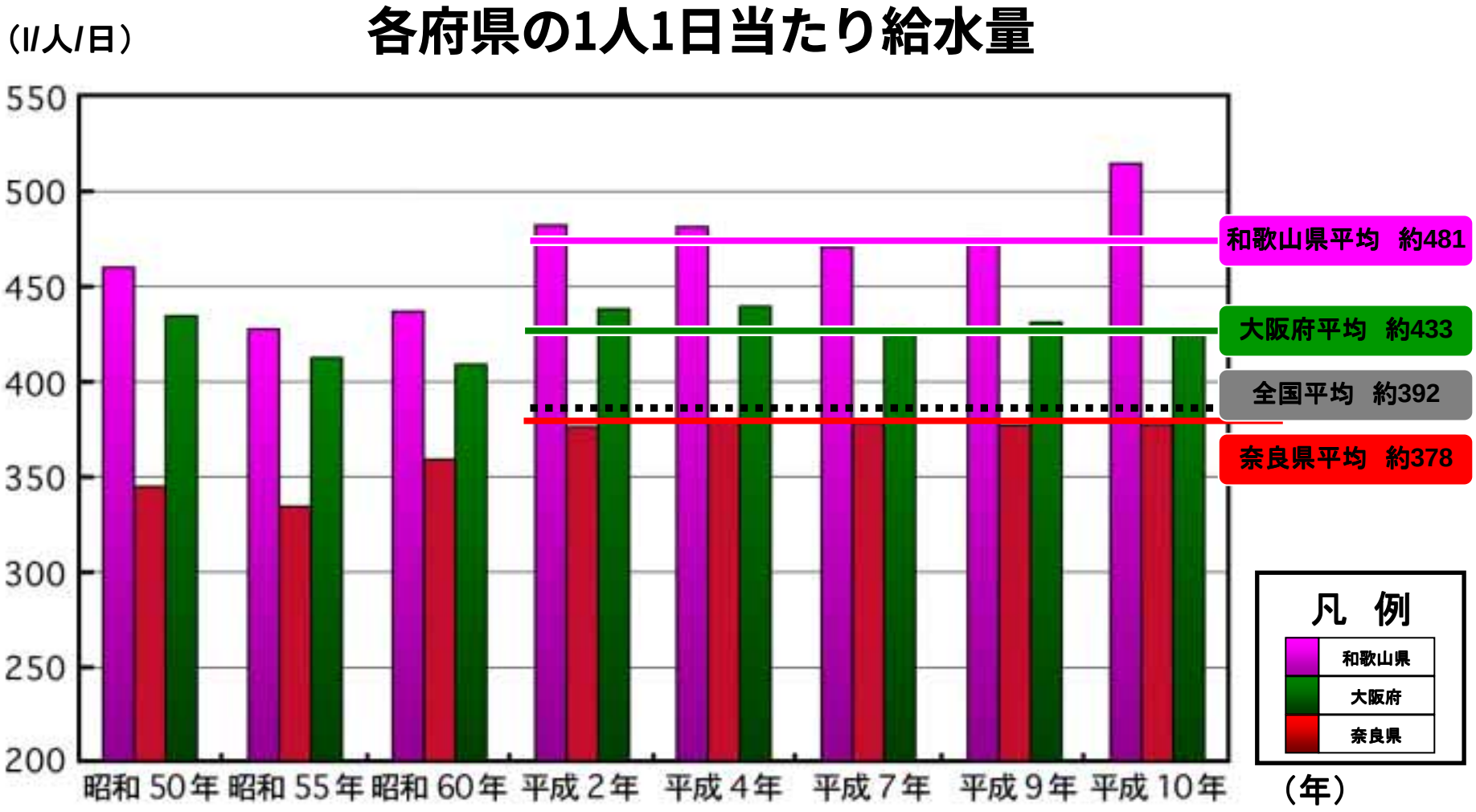

（出典：水道統計）

# 水道用水（3）

## ３．３　１人１日当たり給水量の推移

近年、１人１日当たりの給水量はほぼ横ばい状態です。

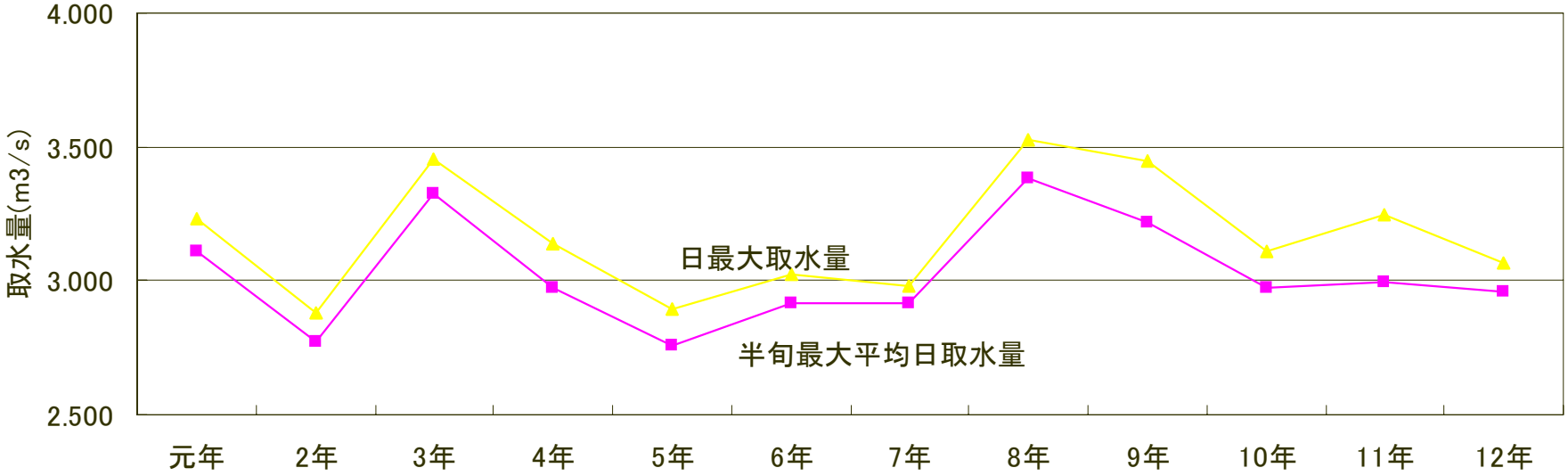
1府・2県の中でも給水量が大きいのは和歌山県で、次に大阪府、奈良県となっています。




（出典：水道統計）

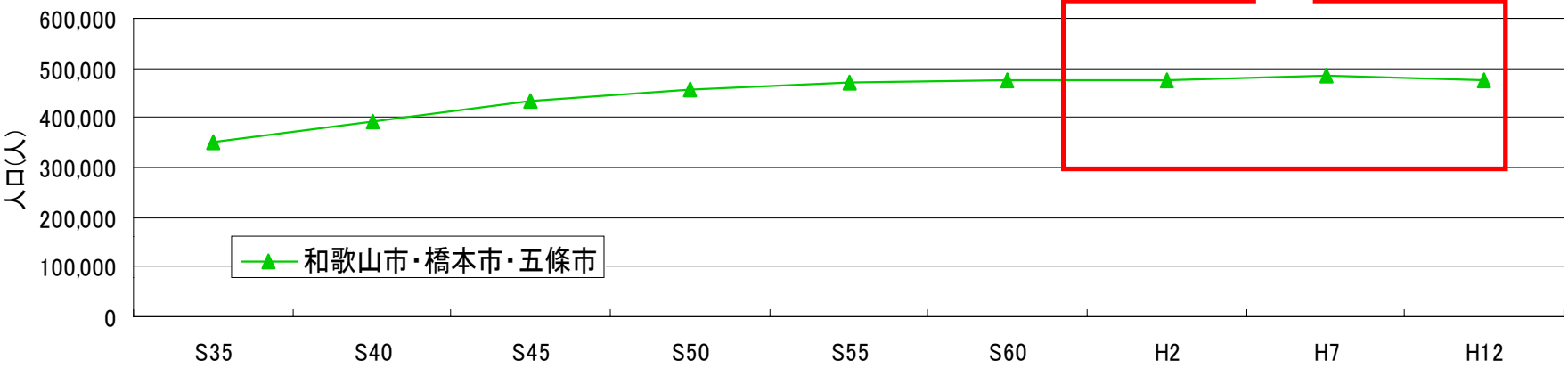
# 水道用水（4）

## 紀の川の主な水道取水実績（1）



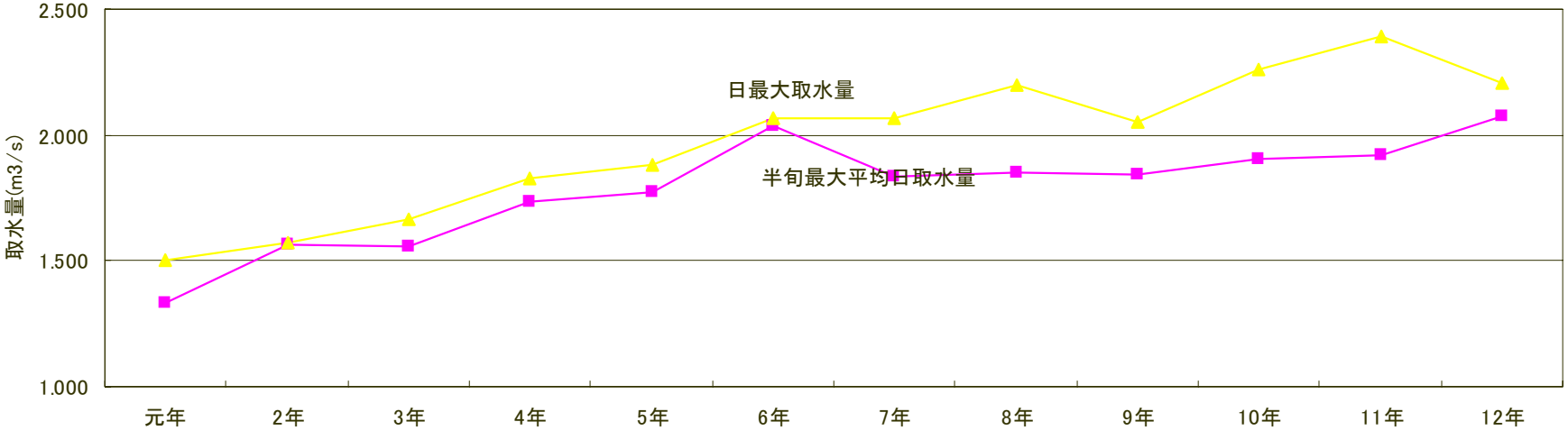

※取水量は、和歌山市、 橋本市、五條市取水報告により作成
※日最大取水量は1年間で最も取水量の多い日の取水量
※半旬最大平均日取水量は1年間で最も取水量の多い半旬の平均日取水量

▼人口の推移



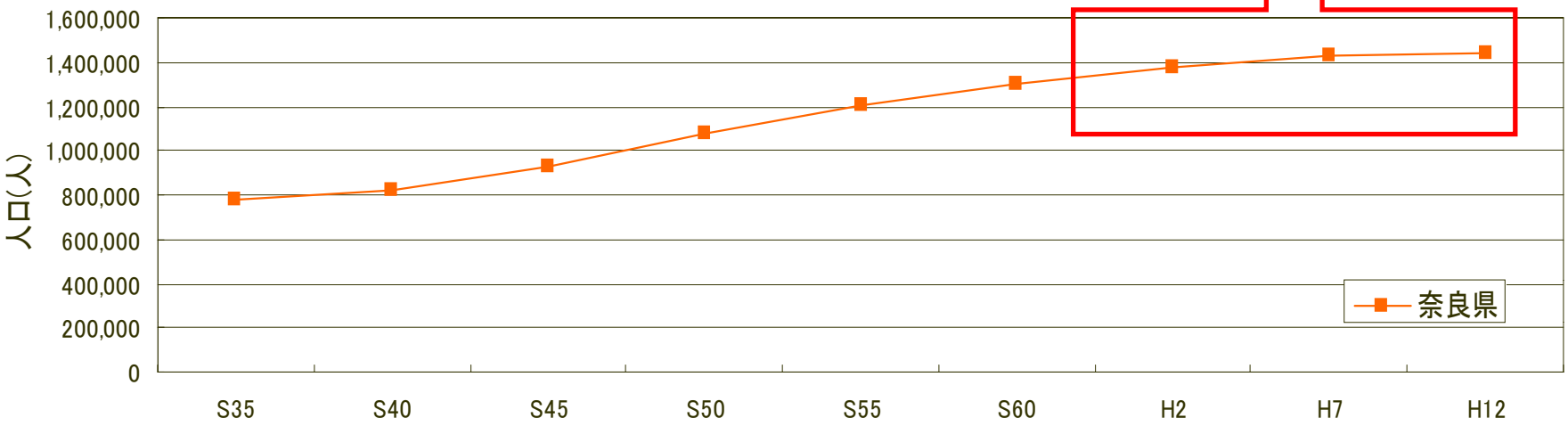
# 水道用水（５）

## 紀の川から分水している奈良県営水道取水実績（２）



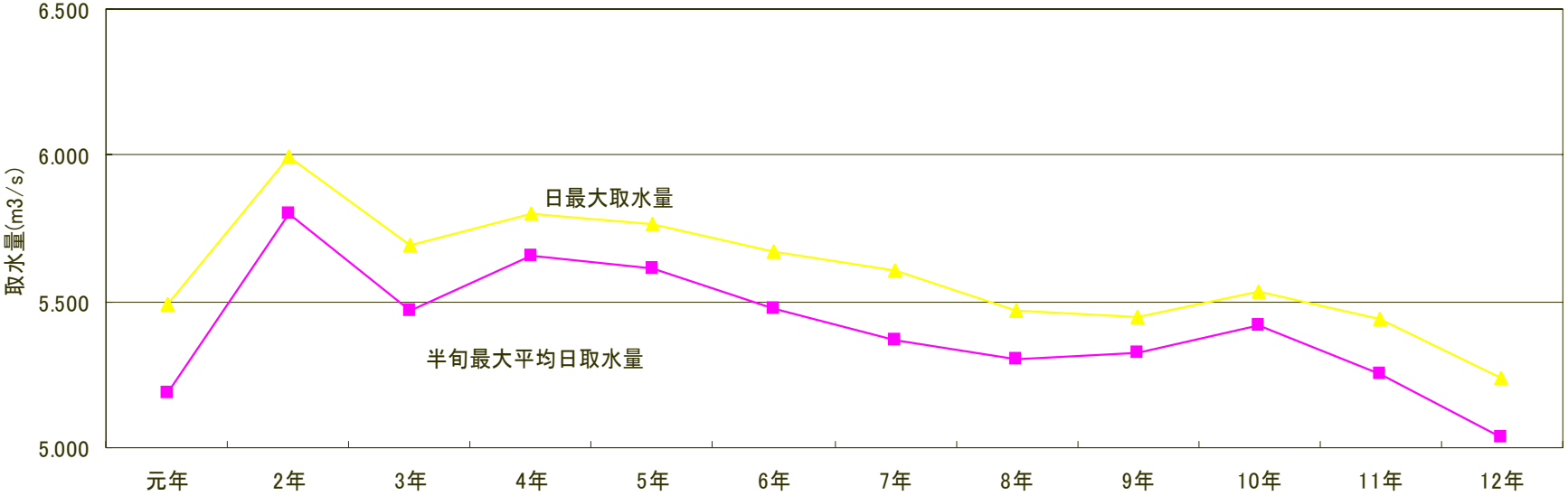

※取水量は、奈良県取水報告により作成
※日最大取水量は1年間で最も取水量の多い日の取水量
※半旬最大平均日取水量は1年間で最も取水量の多い半旬の平均日取水量

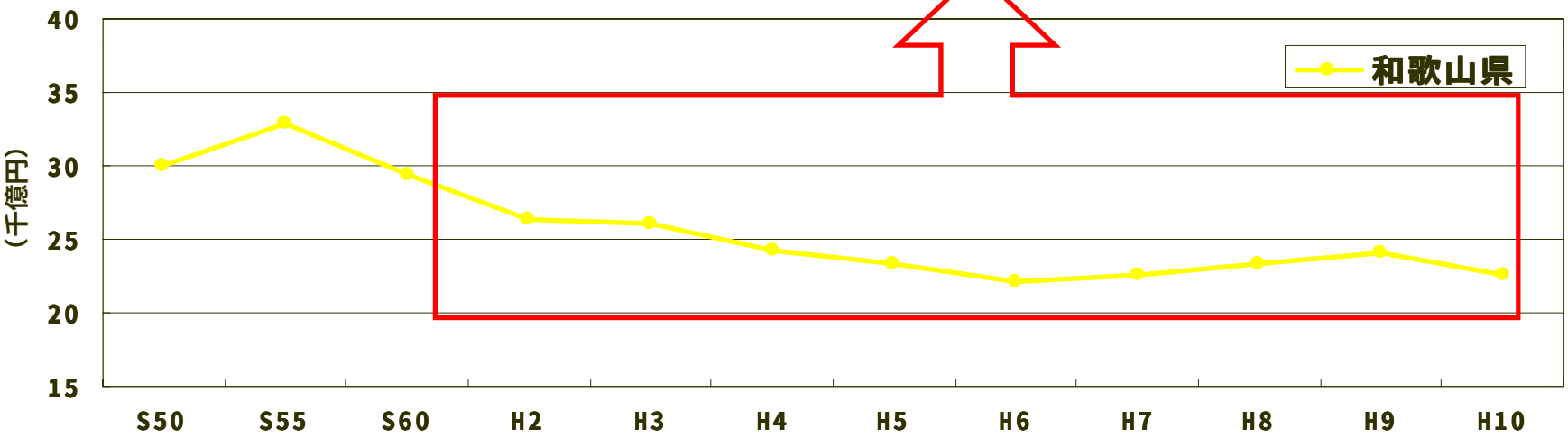
▼人口の推移



# 工業用水

## 紀の川工業用水取水実績




※取水量は、和歌山県（海南市）、和歌山市取水報告により作成
※日最大取水量は1年間で最も取水量の多い日の取水量
※半旬最大平均日取水量は1年間で最も取水量の多い半旬の平均日取水量

▼製造品出荷額の推移